

認証評価結果について

1 経過

平成 20 年 6 月	大学評価 WG 設置（自己評価書作成に着手）
平成 21 年 6 月末	大学評価・学位授与機構（以下、「機構」という。）に自己評価書を提出
平成 21 年 10 月	訪問調査（3 日間）
平成 22 年 1 月末	評価結果案の提示（意見申立期間 ～2 月 25 日）
平成 22 年 3 月 29 日	評価結果の通知

2 評価結果

(1) 大学機関別認証評価

大学評価基準を満たしている。

* 優れた点 19 項目、更なる向上が期待される点 1 項目、改善を要する点 2 項目

(2) 選択的評価事項（B：正規課程の学生以外に対する教育サービスの状況）に係る評価

目的の達成状況が非常に優れている。（4 段階評価の最上位：S）

* 優れた点 5 項目

3 評価結果の公表等

確定した評価結果は、本学に通知されるとともに、文部科学大臣に報告される。また、機構及び本学のウェブサイトへの掲載等により社会に公表される（3 月 29 日に記者発表）。

なお、北九州市地方独立行政法人評価委員会が行う第 1 期中期目標の期間（平成 17 ～ 22 年度）における本学の業務実績の評価においては、この認証評価の結果を踏まえることとされている（地方独立行政法人法）。

「優れた点」「改善を要する点」等について

大学機関別認証評価

基準 1 大学の目的

- 1 - 1 大学の目的(教育研究活動を行うに当たっての基本的な方針,達成しようとしている基本的な成果等)が明確に定められており,その内容が,学校教育法に規定された,大学一般に求められる目的に適合するものであること。
- 1 - 2 目的が,大学の構成員に周知されているとともに,社会に公表されていること。

【優れた点】

学長及び理事長が担当する基盤教育科目「大学論・学問論」において、大学の目的等を講義している。

基準 2 教育研究組織(実施体制)

- 2 - 1 大学の教育研究に係る基本的な組織構成(学部及びその学科,研究科及びその専攻,その他の組織並びに教養教育)の実施体制)が,大学の目的に照らして適切なものであること。
- 2 - 2 教育活動を展開する上で必要な運営体制が適切に整備され,機能していること。

【優れた点】

教育目的を達成するために、基盤教育センターの設置、地域創生学群の設置、マネジメント研究科の設置など、学部、学科及び大学院の再編・新設を実現している。

全学共通の基盤教育を担う組織として基盤教育センターを設置し、40人の専任教員を配置して、明確な責任体制の下に充実した教育を行っている。

入試から就職まで一貫した教育システムの構築を全学的な教学経営の基本に位置付け、入試広報センター、基盤教育センター、キャリアセンター等の各種センターを系統的に整備している。

基準 3 教員及び教育支援者

- 3 - 1 教育課程を遂行するために必要な教員が適切に配置されていること。
- 3 - 2 教員の採用及び昇格等に当たって,適切な基準が定められ,それに従い適切な運用がなされていること。
- 3 - 3 教育の目的を達成するための基礎となる研究活動が行われていること。
- 3 - 4 教育課程を遂行するために必要な教育支援者の配置や教育補助者の活用が適切に行われていること。

【優れた点】

教員組織の活動をより活性化するため、任期制、教員評価制度、報奨金制度、サバティカル制度の導入や、教授定員枠の拡大、非常勤職(語学教師)の常勤化、授業手当制度の創設など、様々な措置が講じられている。

教員の教育活動に関する定期的な評価が行われ、評価結果を適切に活用している。

基準 4 学生の受入

- 4 - 1 教育の目的に沿って,求める学生像及び入学者選抜の基本方針などの入学者受入方針(アドミッション・ポリシー)が明確に定められ,公表,周知されていること。
- 4 - 2 入学者受入方針(アドミッション・ポリシー)に沿って適切な学生の受入が実施され,機能していること。

4 - 3 実入学人数が、入学定員と比較して適正な数となっていること。

【改善を要する点】

学士課程の3年次編入においては、入学定員充足率が低く、大学院課程の多くの研究科においては、入学定員超過率が高い、又は入学定員充足率が低い。

基準5 教育内容及び方法

(学士課程)

5 - 1 教育課程が教育の目的に照らして体系的に編成されており、その内容、水準、授与される学位名において適切であること。

5 - 2 教育課程を展開するにふさわしい授業形態、学習指導法等が整備されていること。

5 - 3 成績評価や単位認定、卒業認定が適切であり、有効なものとなっていること。

(大学院課程)

5 - 4 教育課程が教育の目的に照らして体系的に編成されており、その内容、水準、授与される学位名において適切であること。

5 - 5 教育課程を展開するにふさわしい授業形態、学習指導法等が整備されていること。

5 - 6 研究指導が大学院教育の目的に照らして適切に行われていること。

5 - 7 成績評価や単位認定、修了認定が適切であり、有効なものとなっていること。

(専門職学位課程)

5 - 8 教育課程が教育の目的に照らして体系的に編成されており、その内容、水準、授与される学位名において適切であること。

5 - 9 教育課程が当該職業分野における期待にこたえるものになっていること。

5 - 10 教育課程を展開するにふさわしい授業形態、学習指導法等が整備されていること。

5 - 11 成績評価や単位認定、修了認定が適切であり、有効なものとなっていること。

【優れた点】

他学部授業科目の履修制度、インターンシップ、学部間移籍制度、編入学制度、派遣留学制度の導入のほか、補充教育やクラス別授業の実施、他大学との単位互換の実施、大学以外の教育施設等での学修の単位認定など、学生の多様なニーズ等に配慮した数多くの取組を実施している。

平成 21 年度に文部科学省の科学技術振興調整費「戦略的環境リーダー育成拠点形成」に採択された「戦略的水・資源循環リーダー育成」を活用して、JICAとの間で「JICA長期研修員受入に関する覚書」を締結し、10月に3人の学生を受け入れている。

平成 16 年度に文部科学省現代GPに採択された「地域密着型環境教育プログラムの進化と展開」において、学生の自発的・能動的な学習能力の育成に取り組んでおり、その取組を発展的に展開して文部科学省教育GPに平成 20 年度に採択された「地域密着型環境教育プログラムの戦略的展開 - 人間力育成プログラムの深化と学外・国際連携の充実化 - 」において、

1年次の人間力育成プログラムの充実化、フィールドワーク型環境教育の高度化と異文化・異分野交流の促進、社会活動支援システムの構築、の取組を実施している。

学研都市内の3大学院(当該大学、九州工業大学、早稲田大学)による「北九州学術研究都市連携大学院によるカーエレクトロニクス高度専門人材育成拠点の形成」が平成 20 年度文部科学省「戦略的学術連携支援事業」に採択され、平成 21 年度から連携大学院カーエレクトロニクスコースを開設し、技術革新を主導する技術者の育成に取り組んでいる。

地域創生学群では、平成 21 年度の文部科学省「大学教育・学生支援推進事業【テーマA】大学教育推進プログラム」に採択された「地域創生を実現する人材育成システム」を活用して、北九州市を背景にして「地域創生力」を備えた人材の育成に取り組んでいる。

基準 6 教育の成果

- 6 - 1 教育の目的において意図している、学生が身に付ける学力、資質・能力や養成しようとする人材像等に照らして、教育の成果や効果が上がっていること。

【優れた点】

大学院における標準修業年限内学位取得率が高い。

キャリアセンターの教育成果により、就職決定率が格段に向上し、特に国際環境工学部は、平成 19 年度の大学院進学者を除く卒業者に対する就職者の割合が 97.2%で、九州沖縄地区の大学で理系部門第 1 位となっている。

基準 7 学生支援等

- 7 - 1 学習を進める上での履修指導が適切に行われていること。また、学生相談・助言体制等の学習支援が適切に行われていること。
- 7 - 2 学生の自主的学習を支援する環境が整備され、機能していること。また、学生の活動に対する支援が適切に行われていること。
- 7 - 3 学生の生活や就職、経済面での援助等に関する相談・助言、支援が適切に行われていること。

【優れた点】

学部 1 年次生の留学生全員に対して、3、4 年次生や博士前期課程の学生をチューターとして個別に配置し学習に関するサポート活動を行っている。

「早期支援システム」を設け、学生サポート委員が個別に修学・生活相談を行うことで、学生の悩みや問題を早期に発見し、支援を行っている。

北方キャンパスにおいて、学生支援のための多様な機能を集中させた学生プラザを設置している。

基準 8 施設・設備

- 8 - 1 大学において編成された教育研究組織及び教育課程に対応した施設・設備が整備され、有効に活用されていること。
- 8 - 2 大学において編成された教育研究組織及び教育課程に応じて、図書館が整備されており、図書、学術雑誌、視聴覚資料その他の教育研究上必要な資料が系統的に収集、整理されていること。

【優れた点】

ひびきのキャンパスでは、図書館機能を有する学術情報センターや産学連携施設などが学研都市に設置された他大学との共同利用施設として効率的な運用がなされている。

【改善を要する点】

北方キャンパスの図書館は多くの学生、教職員に利用されているが、すでに飽和状態に近く、整備拡充が必要である。

基準 9 教育の質の向上及び改善のためのシステム

- 9 - 1 教育の状況について点検・評価し、その結果に基づいて改善・向上を図るための体制が整備され、取組が行われており、機能していること。
- 9 - 2 教員、教育支援者及び教育補助者に対する研修等、その資質の向上を図るための取組が適切に行われていること。

【優れた点】

F D 特命教授を置き、F D 委員会を中心に講演会、研修会等活発な F D 活動を行い、その結果を教育の質の向上及び改善に反映させている。

【更なる向上が期待される点】

卒業生や就職先企業等からの組織的な意見聴取が行われているが、その取組に一層の努力が期待される。

基準 10 財務

- 10 - 1 大学の目的を達成するために、教育研究活動を将来にわたって適切かつ安定して遂行できるだけの財務基盤を有していること。
- 10 - 2 大学の目的を達成するための活動の財務上の基礎として、適切な収支に係る計画等が策定され、履行されていること。
- 10 - 3 大学の財務に係る監査等が適正に実施されていること。

基準 11 管理運営

- 11 - 1 大学の目的を達成するために必要な管理運営体制及び事務組織が整備され、機能していること。
- 11 - 2 管理運営に関する方針が明確に定められ、それらに基づく規程が整備され、各構成員の責務と権限が明確に示されていること。
- 11 - 3 大学の目的を達成するために、大学の活動の総合的な状況に関する自己点検・評価が行われ、その結果が公表されていること。

【優れた点】

学長のリーダーシップの下に、副学長等に若手教授や女性教授を積極的に登用するとともに、経営企画課を設置してスピードのある改革を実施している。

選択的評価事項 B（正規課程の学生以外に対する教育サービスの状況）に係る評価

- B - 1 大学の目的に照らして、正規課程の学生以外に対する教育サービスが適切に行われ、成果を上げていること。

【優れた点】

地域における教育サービスを中期目標に位置付け、大学の重要な使命として積極的な取組を行っている。

公開講座をはじめ、地域に対するきわめて多くの教育サービス事業を実施し、多数の参加者を確保している。

「地域密着型環境教育プログラムの戦略的展開 - 人間力育成プログラムの深化と学外・国際連携の充実化 - 」が平成 20 年度文部科学省教育 G P に選定され、環境教育に関する調査結果を分類・体系化して教材としての DVD を作成し、市内の中学校・高等学校や環境関連施設等に配布している。

社会貢献事業として、NPO との連携、一般社会人が学生とともにゼミに参加できるコミュニティ・コースなど、幅広い世代に対応した取組を展開している。

北九州市の地域特性を背景に、国際協力や企業への支援等で積極的に社会に貢献している。

【参考】

選択的評価事項 B に係る評価の評価結果

【本学の結果】

「目的の達成状況が非常に優れている」...S 評価

【他大学の結果（受審した全大学）】

<国立大学>

長岡技術科学大学（H17 年度実施）A
豊橋技術科学大学（H17）A
岩手大学（H18）S
秋田大学（H18）A
山形大学（H18）A
愛知教育大学（H19）A
岡山大学（H19）A
室蘭工業大学（H19）A
福島大学（H19）A
千葉大学（H19）A
信州大学（H19）A
岐阜大学（H19）S
兵庫教育大学（H19）A
奈良教育大学（H21）A

<公立大学>

大分県立看護科学大学（H17）A
奈良県立医科大学（H18）A
大阪市立大学（H20）A
神奈川県立保健福祉大学（H20）A
群馬県立女子大学（H21）A
首都大学東京（H22）A
新潟県立看護大学（H22）A
静岡文化芸術大学（H22）A
愛知県立芸術大学（H22）A
名古屋市立大学（H22）A
滋賀県立大学（H22）A
九州歯科大学（H22）A
福岡県立大学（H22）S
福岡女子大学（H22）A
大分県立看護科学大学A

<私立>

大阪女学院大学（H22）B
放送大学（H22）A